

# 全国調査報告書

報告者：日本小児循環器集中治療研究会

報告日：2021年3月1日

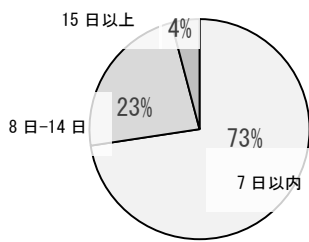
調査名：肺血流増加型先天性心疾患に対する低濃度酸素吸入療法の管理体制調査

期間：2021年1月1日～2月28日

対象：日本小児循環器学会専門医修練施設 144施設

回答：78施設（回答率54%）（うち本療法 73実施施設（94%） 5未実施施設（6%））

## ● 低濃度酸素吸入療法の期間（原則）



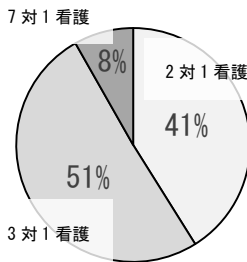
質問：「窒素による低濃度酸素吸入療法」を行なった場合の原則の使用期間は何日ですか？

回答：7日以内 53施設、8-14日 17施設、15日以上 3施設

結果：全体の96%の施設が14日以内に本療法を終了している。そのうち約4分の3が7日以内。

考察：本療法は主に一般的急性期である2週以内に終了する治療法であり、治療が長期化することは稀である。

## ● 看護管理体制



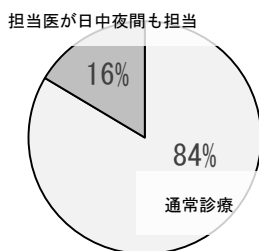
質問：「窒素による低濃度酸素吸入療法」を施行している主な病棟の看護体制は？

回答：2対1看護 30施設、3対1看護 37施設、7対1看護 6施設

結果：多くの施設が集中治療室（NICUを含む）で管理されているが、7対1看護病床（GCUや小児専門一般病床）で診療せざるを得ない施設がある。

考察：本療法を行うにあたり8%の施設の看護体制不十分である。

## ● 医師管理体制



質問：「窒素による低濃度酸素吸入療法」を行なった場合の医師の主な診療体制は？

回答：通常業務 61施設、担当医師が日中夜間も対応 12施設

結果：「担当医が日中夜間も担当する」と答えた場合の1日あたりの時間外勤務は？

回答：平均8.5時間

考察：本療法を行うにあたり16%の医師が平均8.5時間の労働負荷が増加する

日本小児循環器集中治療研究会 代表幹事 大崎真樹

連絡先：東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部小児科内

電話：03-5800-8659、Email：jspccc.office@gmail.com



以下、空白